

レファレンス だ よ い

2011年12月号
No.109

福岡市総合図書館
図書サービス課 相談係
☎092-852-0632



レファレンス・サービスとは、情報を求めて来られた利用者に対して、図書館の資料等を活用して、必要としている情報を探すお手伝いをするサービスのことで、法律相談や物品鑑定などといったお答えできない質問もあります。また、質問によっては回答に日数がかかるもの、資料や情報が提供できない場合もありますのでご了承ください。

■レファレンス受付件数（2011年9月分）

参考	人文	社会	自然	郷土
99	1,884	400	490	416
国際	国連	こども	ホピュラー	合計
456	73	992	1,249	6,059

（開館日25日 一日平均242件）



今月のレファレンス徹底解説！

Q：雪舟のアトリエ、天開図画楼について書かれた「天開図画楼記」を見たい。

■事典で雪舟について調査

『国史大辞典 8』（国史大辞典編集委員会／編 吉川弘文館 1987年）2階 C10 R210.03/3

雪舟等楊の項目に、豊後の画室について中国の旅に同行した呆夫良心が「天開図画楼記」なる一文を文明8年（1476）3月に作っているとの記述がある。「天開図画楼記」本文は記載なし。

『古画備考 卷中 増訂』（朝岡 興禎／著 思文閣出版 1983年）2階 C12 R721.02/7

上述の『国史大辞典 8』で参考文献として挙げられている日本絵画史研究の基本書である。近世までの画人の伝記・作品に関する資料がまとめられている。雪舟の項目に「天開図画楼記」本文記載あり。呆夫良心と了庵桂悟が書いたものがあり、本文は漢文で返り点が付いている。

※同書は多数の画人について書かれており、下記の索引から検索した。

『古画備考五十音別索引』（辻 惟雄・中島 純司／編集 思文閣出版 1970年）2階 C12 R721.03/7

■雪舟関連図書で解説が載っているものを調査

『雪舟等楊新論』（蓮実 重康／著 朝日出版社 1977年）閉架書庫 721.3/11

第八章に呆夫良心が書いた「天開図画楼記」本文、補註九に読み下し文が載っており、第十章に了庵桂悟の「天開図画楼記」本文と読み下し文が載っている。どちらも直接友誼のあった友人の認めたものとして、多少の褒詞を含むとは言っても、雪舟の伝記と彼の作風を概括した意味をもつものとして重要であると解説されている。補註十四に谷口鉄雄著『東洋美術論考』の中に「天開図画楼記について」の研究があるとの記述もある。

『東洋美術論考』（谷口 鉄雄／著 中央公論美術出版 1973年）閉架書庫 702.2/4

文明元年（1469）中国から帰朝した雪舟が、やがて大分にアトリエを設け、ついで山口に移って同地にもアトリエを構え、いずれもそれを天開図画楼と称した。大分のアトリエについては、呆夫良心が文明8年（1476）「天開図画楼記」を作り、山口のアトリエについては文明18年（1486）了庵桂悟が「天開図画楼記」を作ったとある。天開図画という言葉の中国における出典や天開図画楼記というものの中国における先例について考察されていて、天開図画とは広々とした自然の山水の意味であり、宋の詩人で書家の黄庭堅の詩にみえる言葉であること、すでに宋の時代にこの詩句によって建物に命名した例があり、日本にも雪舟以前からあることが書かれている。また、天開図画はどんな思想なのかについても言及されている。

■天開図画の思想に関してさらに調査

『人間の美術 7 バサラと幽玄』（梅原 猛／監修 学研 2004年）2階 B16 708/2

特集に中路正恒著の雪舟と天開図画の思想が載っている。



その他にもこんな質問がありました

Q：徳川将軍家の菩提寺である増上寺に、誰が埋葬されているか知りたい。

■墓誌関連

『図説徳川将軍家・大名の墓』（河原 芳嗣／著 アグネ技術センター 2003年）2階 B13 281.02/カ
東京都港区芝公園にある増上寺には、2代秀忠、6代家宣、7代家継、9代家重、12代家慶、14代家茂と御台所の和宮の宝塔のほか、改葬により合祀された夫人・側室・子女たちの宝塔1基がある。巻末には徳川家歴代将軍とその正室の墓所の一覧あり。

『徳川将軍家墓碑総覧』（秋元 茂陽／著 パレード 2008年）2階 C11 R288.3/7

それぞれの将軍ごとにその墓について書かれている。巻末には寺院別墓碑・合祀者一覧があり、増上寺に埋葬された人物がわかる。

■人類学関連

『骨が語る日本史』（鈴木 尚／著 学生社 1998年）閉架書庫 469.41/ス

増上寺には、歴代将軍家の家族38柱の墓がある。増上寺埋葬者がわかる将軍家系図（抜粋）あり。

『骨が語る 徳川将軍・大名の人びと』（鈴木 尚／著 東京大学出版会 1985年）閉架書庫 469/ス
増上寺に埋葬された人物を一部取り上げ、墓や改葬の様子が書かれている。

Q：幕末長崎出島で輸入されていた顔料（絵の具）についてわかる資料はないか？

■出島歴史関連

『長崎唐人屋敷』（山本 紀綱／著 謙光社 1983年）2階 B12 219.3/ヤ

文化元年（1804年）唐船11隻との貿易の輸入品の中に染料・塗料412,298斤とあり。1斤=160匁=0.6kgで換算すると約247tとなる。

■長崎貿易関連

『長崎の唐人貿易』（山脇 悌二郎／著 吉川弘文館 1995年）2階 D20 678.21/ヤ

唐人貿易の輸入品として、鋳物・染料・塗料・皮革・唐紙の項目があり、解説されている。

『日蘭貿易の史的研究』（石田 千尋／著 吉川弘文館 2004年）2階 D20 678.21/イ

文化11年（1814年）と文政8年（1825年）の日蘭貿易の事例を取り上げ、輸入品とその取引について詳しい考察あり。その中に、「蘇木」（赤い染料）の輸入量、注文量、販売量、価格についての表があり、オランダ側はこの蘇木の販売で43.8%の益を上げたとある。

『長崎貿易と大阪：輸入から創薬へ』（宮下 三郎／著 清文堂出版 1997年）2階 D20 678.21/ミ
幕末、長崎貿易での輸入品のうち、少量ずつ取り扱われた金属類（医薬品や顔料）について記載あり。

Q：日本古代の船について知りたい。

■事典

『船の歴史事典』（アテリオ・カリー、インツォ・アツェルッチ／共著 原書房 2002年）2階 E4 R550.2/ク

巻末に海事史年表あり。紀元前3千年頃からの西洋・東洋の船の歴史についてわかる。

■船舶関連

『図説 和船史話』（石井 謙治／著 至誠堂 1983年）2階 E15 552.73/イ

古代日本において、一本の木をくりぬいて造った船（単材割船：たんざいくりぶね）が多数の遺跡より確認されているとあり。福井県で発掘された縄文前期のものとされる単材割船は、全長6メートル幅0.6メートル、杉の木でできている。ほとんどが鯉節型で、当時はこれが普通化していたことがわかるとある。出土した船の白黒写真多数あり。

『船の世界史 上巻』（上野 喜一郎／著 舵社 1980年）閉架書庫 550/ウ

弥生時代になると鉄器の登場によって、複材での割船ができるようになり、海浜・湖・河川での使用から、大陸との往来が可能になった。船首尾をそり上げて耐航性を増すとともに、船腹の増大が図られている。古墳時代には全長15メートル程の大型の船も出現し、中国や朝鮮との往来が頻繁に行われるようになったとある。

Q：ライムの伝播について知りたい。

■事典

『世界大百科事典 29』(平凡社 2009年) 2階 C1 R031/t

インド東北部あるいはマレーシア地域原産で、アラブ諸国、北アフリカを経てヨーロッパ南部に伝えられ、カリブ海の島々と新大陸に伝播した。日本には20世紀前半に台湾を経由して伝わるが寒さのため栽培できなかつた。近年再導入され、タヒチライムのハウス栽培が試みられている。

『果実の事典』(杉浦明・宇都宮直樹/編集 朝倉書店 2008年) 2階 E4 R625.03/カ

ヒマラヤ東部からマレー諸島に至る地域で発生したと考えられる。10世紀終わり頃、イスラム商人によって中近東にもたらされ、北アフリカやスペイン、ポルトガルにも伝えられた。12～13世紀頃十字軍によってイタリアにも伝えられ、16世紀初頭には西インド諸島やフロリダに伝えられた。わが国では、明治時代に既に小笠原諸島で栽植されていたと書かれている。

『世界食材事典』(杉田浩一・村山篤子/監修 柴田書店 1999年) 2階 E2 R498.52/t

原産国はインドとマレーシアの中間地域とされている。13世紀に十字軍によってフランスとイタリアに持ち込まれたとあり。

■柑橘類関連図書

『柑橘類(シトラス)の文化誌』(ピエール・ラスロー/著 一灯舎 2010年) 1階ボ76 625.3/ヲ

食料品店で最もよく見かける種類のサワーライムはインド北東部が原産地で、アラブ人がスペインに伝えた。12世紀か13世紀ごろには十字軍によってイタリアで植えられ、16世紀にはスペインやポルトガルの航海者がアメリカ大陸にもたらし、プランテーションが始まったと書かれている。

Q：1911年の辛亥革命の時、多くの日本人が支援したと聞いているが、実際にはどれくらいの人数だったのか？

辛亥革命について書かれた図書は和書、中国語書ともにたくさんあるものの具体的な人数について記載されたものは少ない。

■和書

『宮崎滔天全集 第1巻』(宮崎滔天/著 平凡社 1971年) 2階 B5 081.6/ミ

宮崎滔天の「三十三年之夢(1902年)」は中国語にも訳され、当時日本に来ていた留学生や大陸でも多に読まれ、革命家孫文の名を広く国内外に知らしめるものとなった。「清国革命軍談(1911年)」「支那革命物語(1916年)」に革命を支援した日本人名40数名記載。

『梅屋庄吉と孫文 盟約ニテ成セル』(読売新聞西部本社/編 海鳥社 2002年) 1階ボ68 289/ウメ

梅屋庄吉は孫文の活動に莫大な資金を投じて支援し続けた。「一切口外シテハナラズ」という梅屋の遺言によりその存在は長く知られていなかった。梅屋庄吉と交流があり、孫文を支援した日本人として8名の紹介あり。

『孫文の辛亥革命を助けた日本人』(保阪正康/著 筑摩書房 2009年) 1階ボ50 B222.07/ホ

辛亥革命後、孫文の自著『孫文学説』に革命を助けた日本人として27名を紹介したとある。

■中国語書

『国父全集 第1冊』(孫文/著 中国国民党中央委員会党史委員会 1973年) 2階郷土 K21 Z-B-1-3/SU

収容の『孫文学説』には20余名の日本人の名前あり。ただし「そのほかにも中国革命に奔走尽力した日本人は数多く、ここに書ききれない」との記述あり。

『中山先生與國際人士(上・下)』(張家鳳/著 2010年) 2階国際 A18 F103CHI 222.07/ZH

辛亥革命の時代背景や孫文(孫中山)が国際人士の助けを借りた困難な過程を描き、革命においてアジア・アメリカ・ヨーロッパの10カ国の国際人士の果たした役割を論述した書。日本人やその他外国人の氏名、当時の役職、革命時の役割などを膨大な資料から拾い上げて詳細に記載した。この資料によると支援した日本人は503名(革命に理解を示した者から実際に中国において革命に参加した者まで幅広く記載)。

※ 棚番号は総合図書館のもので、本によっては、分館も含めて複数冊所蔵しているものがあります。



今月の一冊！

『国際連合世界人口予測【2010年改訂版】1960→2060』

(国際連合経済社会情報・政策分析局人口部／編 原書房 2011年) 2階 C16 R358/1

国連の発表によると、世界の人口は10月31日に70億人に達したそうです。今後も世界の人口は増え続け、今世紀半ばには93億人となり、今後90年の間に100億を超えると見込んでいます。この本は国連の人口部による公式人口推計と予測の最新結果をまとめたもので、人口に関する情報を必要とする国連組織の諸活動の基準になり、多くの国際団体、研究機関、報道機関も利用しています。2010年改訂版は、1960～2060年の主要地域、特定グループ、国ごとの人口学的指標（総人口、平均人口増加率、出生率、死亡率など）と男女・年齢別人口の推計および予測が示されています。国ごとの男女・年齢別人口の推計と予測は、2010年時点で10万人以上の住民のいる国のものです。全ての表のデータは、1960～2010年までの推計値とそれ以降の中位、高位、低位、および出生率一定の予測値で、高位予測は中位予測の出生率を0.5人上回る場合、低位予測は0.5人下回る場合の値となっています。

つまってみました！⇒“2050年の日本の総人口予測”を調べる！

2050年、日本の総人口は中位予測が1億854万9千人。高位予測は1億2147万6千人。低位予測は9656万8千人となっています。



図書館活用術

～図書館所蔵雑誌・新聞一覧について～

今年7月、福岡市総合図書館ホームページがリニューアルされました。所蔵資料の検索や休館日のお知らせを始め、各種イベントや展示の情報がチェックできます。またパスワードを登録すると、貸出状況や期限の確認はもちろん、予約申込み、貸出期限の延長ができるようになります。この機会にぜひご利用ください。11月から、雑誌と新聞の所蔵一覧が加えられました。総合図書館と各分館、赤煉瓦館で継続的に受け入れている雑誌のタイトルが確認できるようになっています。各最新号やバックナンバーは検索画面で所蔵状況を確認してください。

その中から総合図書館2階にある寄贈雑誌をご紹介します。総合図書館には様々な団体、企業、資料館などから、広報誌や年報の類が数多く送られてきます。中には工夫をこらした特集や連載もあり、読み物として楽しめる内容のものもあります。これらは普段あまり目にする事ができないものです。来館の際はぜひ手に取ってみてください。

■『Coffee Break (コーヒブレイク)』全日本コーヒー協会 不定期刊 M1-3

コーヒーに関する様々な情報とカラー図版が満載の機関紙。

■『みんてつ』日本民営鉄道協会 季刊 M11-5

鉄道事業の現状や加盟各社の取り組みなどを紹介。「鉄道と映画」「地方民鉄紀行」などの連載あり。

■『ACE 建設業界 (エーシーイーケンセツギョウカイ)』日本建設業連合会 月刊 M11-6

タイトルは「Architecture (建築)」と「Civil Engineering (土木)」の融合を目指し、それぞれの頭文字を取って名づけたとのこと。建設業界全体を多角的に捉えた広報誌。

*初めてパスワードを取るときは…

館内検索機または総合図書館ホームページからどうぞ。

福岡市総合図書館【<http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/>】>ログイン認証>仮パスワード申請



ご利用ありがとうございました…。

早いもので今年も残りわずかとなりました。総合図書館および各分館は12月28日(水)～1月4日(水)まで休館いたします。予約本の受け取り、本の返却等にご注意ください。